

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	シーフ	Lv.1:		レベル	2
サポートクラス	ガンスリンガー	Lv.1:	ガンスリンガー	性別	男性
称号クラス				年齢	20
種族	ヴァーナ			境遇	秘密
出自 (効果)	冒険者			目標	戦い好き

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	9	12	12	6	11	6	9
ボーナス	3	4	4	2	3	2	3
クラス修正	0	2	1	0	2	1	0
他修正							
能力値	3	6	5	2	5	3	3

HP	39
MP	33
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ガンパード	10m	0	11	0	0	0	0	0
左手									
頭部	ハット					1			
胴部	ローブ					2			
補助	マント					1			
装身具	シーフズツール								
能力値			6	0	5	0	3	10	8
スキル	オーバーパス							1	5
その他	スペシャライズ：魔導銃SL1		1	1					
総計(右)			7	12					
総計(左)					5	4	3	11	13
総計(両)									m
ダイス数			3 d	2 d	3 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	5			5	+ 3 d
トラップ解除	6			6	+ 4 d
危険感知	5			5	+ 2 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
ベルトポーチ	
バックパック	
冒険者セット	
くさび	
小型ハンマー	
ポーションホルダー	
MPポーション	
MPポーション	
MPポーション	
HPポーション	

現在重量：	13	所持金：	340	預金・借金：	
最大重量：	16				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
オーバーパス	★	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果：	狼族、移動力+5m、行動値に+1							
ワイドアタック	1	4	メジャー	武器	範囲(選択)	命中	-	
効果：	対象に武器攻撃を行う。2体以上を対象に取ったらダメージ+[SLx2]、クリティカル：DR増加							
バタフライダンス	★	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果：	回避判定に+1D							
ピアシングストライク	1	5	DR直前	-	自身	自動成功	-	
効果：	武器攻撃のDRに+ [(SL) D]							
キャリバー	★	-	アイテム	-	自身	-	-	
効果：	キャリバー（攻撃力+ [CL+3]、射程10m）を1個取得、あなたのみ装備・使用可能							
キャリバーガンパード	2	-	アイテム	-	効果参照	-	-	
効果：	《キャリバー》で取得した「種別：魔導銃」の武器の「攻撃力」に+ [SLx3]、[重量：6] [装備部位：双]に変更							
アームズマスタリー：魔導銃	★	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果：	武器を使用した命中判定に+1D							
スペシャライズ：魔導銃	1	-	パッシブ	-	自身	-	選択武器使用	
効果：	選択した武器を使用した命中判定の達成値に+SL、ダメージに+SLする。							
ファインドトラップ	★	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果：	トラップ探知の判定に+1D、失敗してもトラップ作動しない							
リムーブトラップ	★	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果：	トラップ解除の判定に+1D							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

取得しておくべきスキル
シーフ
・ワイドアタック 2体以上対象時ダメージ+SL*2 2体以上の為要検討
→ワイドストーム メジャー&命中判定の武器攻撃を行うシーフ及び上級クラスのスキルと同時に使用、武器攻撃ダメージ+SLD ワイドアタックSL5必須の為、要検討
・インタラプト パッシブ、アイテム以外のスキル使用宣言時、そのスキルの効果を無効にし終了する。 必須級
・スペシャライズ 選択した武器を使用した命中判定の達成値に+SL、ダメージに+SLする。 必須級
→ウェポンフォーカス 武器攻撃のダメージ+5 スペシャライズSL5必須 必須級

<キャラクター設定>
パリソ同盟より遙か北方に存在する、ラーフ大洞窟を越えた沈黙の氷原にほんの僅かながら点在する、とある村出身の青年。彼はとにかく異端だった。他者との関わりを避けるばかりか、その村に居座る事すら嫌い、独りで狩猟に出掛けるからだ。しかし、それどころでもない事だったのかも知れない。彼は村から疎んじられ、奇異の目に晒され続けていたからだ。だが、関わりを避ける事だけが彼が疎んじられる理由ではない。彼の両親は年齢もあるが、病気でまともに仕事が出来ず、食物が育たないこの地に置いて狩猟する事すら出来なかった。物心つく前から狩猟の技術を教え込まれていた彼は、そんな両親と自分の為にこの地の魔獣や魔物をひたすら狩っていた。通常の種族では生きる事など適わぬ、この極寒の地において魔獣や魔物は彼らを生かす貴重なエネルギー源である。小さな村に少ない村人と言えど、この極寒の地で生きる為には大量のエネルギーが必要だった。何故なら、この極寒の地に適応する為にこの地に住むヴァーナは他のヴァーナよりも一層、獣に近い性質を得ていた。しかし、それはこの極寒の地で生きる為には通常の種族の何倍もの膨大な熱量が必要不可欠となり、必然的にエネルギーを大量に摂取し続けねばならないという、諸刃の剣でもあった。